

令和7年度 学校評価報告書 **目標設定・実施結果)**

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①科学技術教育に関する感性を醸成させ、幅広い教養・技能・技術を身に付けさせる。 ②生徒一人ひとりに見合った指導を工夫し、全ての生徒が等しく学習者として参加できる体制を整える。	①化学技術教育に関する幅広い教養・技能・技術を、実習の授業を中心に学校生活全般で身に付けさせる。	①実習や課題研究等で、他分野の内容や取組みを知ることにより、自身の分野のすそ野を広げる。また、様々な学校生活の場面において科学技術と結びつける。	①他系の実習や課題研究等の取組みや内容を見学や知ることにより、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」が高評価であったか。					
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会のルールを順守できる人材を育成する。 ②支援が必要な生徒を適切な機関につなげる支援体制を構築する。 ③部活動や委員会活動を活性化させ、責任感やコミュニケーション能力などの人間性を育む。	①基本的生活習慣を確立させ、社会のルールを順守できる生徒を育成する。 ②支援が必要な生徒がいつでも相談できるように相談体制を構築する。 ③生徒が部活動や委員会活動への参加を促す。	①定期的に校内外指導を行い、基本的生活習慣が身につくように丁寧な指導を行う。 ②担任や教科担当、SCやSSWと連携し、支援が必要な生徒を拾い上げることができる。 ③生徒の部活動への加入促進。部活動による儀式での校歌歌唱。生徒の活動状況の外部発信。	①校外からの苦情を昨年度より少なくすることができたか。 ②面談等を通して、生徒の困り感を解消することができたか。また、継続した支援が行えたか。 ③校内の儀式等で、生徒が歌唱を担当したか。生徒の部活動加入率が55%を超えたか。各委員会が複数回活動したか。					
3	進路指導・支援	①生徒が主体的に進路決定に向き合えるように入学時から段階的に進路指導の充実を図る。 ②上級学校への進学を見据えたキャリア教育を実践する。	①学校生活の様々な機会を利用した進路指導教育を実践する。 ②就業体験の機会を設ける。上級学校・企業等との連携を図る。	①日ごろ生徒に接する中で進路意識向上をめざす。社会人としてのマナーを身に着けさせる。 ②2学年でインターンシップを実施する。上級学校・企業等からの出張授業や、見学会を実施する。	①就職内定率100%を達成するか。進路未決定のまま卒業する生徒をゼロにできたか。 ②持続可能なインターンシップが実施できたか。上級学校・企業等からの出張授業や、見学会を実施したか。					
4	地域等との協働	①工業系専門高校として、ものづくり体験教室を始め、文化祭、学校へ行こう週間等での地域への公開で開かれた学校づくりを進める。 ②保護者や地域社会との協働により開かれた学校づくりをめざす。	①近隣中学校の連携を通じ、本校の特色の周知を図る。 ②PTAや地域・企業等の連携を拡充し、教育活動の推進に取り組むと共に、ものづくりなどを通じて地域に貢献する。	①中学校訪問等の広報活動を通じ、本校の特徴を知つてもらうようにする。 ②PTAや地域・企業等と連携した取り組みの実施とその情報発信を実施する。	①広報活動の内容を分析し、次年度の広報活動に向けた準備ができたか。 ②連携した事業の実施状況及びそれを踏まえた地域連携等の意見を検証する。					
5	学校管理 学校運営	①職員の働き方改革を推進し、事故・不祥事が起こらない職場環境を創造する。 ②防災意識を高め、防災力を上げる。地域の防災拠点としての充実を図る。	①不祥事防止研修を職員主体で実施するとともに職員の働きやすい職場を目指す。 ②教育課程の中で、実践的に取り組むことができる防災教育の充実と意識の向上に努める。	①月1回の職員会議を通して全職員で事故防止について考える。 ・衛生委員会を通して職場の状況を集約し、改善に努める。 ②自治体等と協同し、訓練、講演会、DIG等の実施と情報発信を積極的に進める。	①毎月事故防止研修を実施できたか。また、事故・不祥事件数をもとに検証する。 ・職場環境の改善により、風通しの良い状況が作れたか。 ②防災に関する知識を習得し、災害時の対策について意識を高めることができたか。					